

全国各地からの 地域情勢報告

第2弾

本誌7月号に続くシリーズ第2弾となるオンライン座談会の模様をリポートする。7月1日(火)、沖縄・宮崎・愛媛・兵庫・京都・東京・新潟の1都1府5県から8名の学習塾経営者が集まった。

夏期講習の集客活動が鈍化している現状をはじめとして、地域の中で学習塾そのものが約1/3減少している状況が明らかにされた。

また、入塾のタイミングの分散傾向や2学期制の導入、地域間格差、学区再編など学習塾の現状にまつわるトピックスが満載だ。中学受験・高校受験・大学受験の分析を通して、大学進学を見据えた継続指導の可能性や保護者のニーズに対応する重要性など、今後の塾経営に求められる共通認識も浮き彫りとなった。

西園寺 はじめに、自塾のご紹介をお願いします。

安東 学習塾ベンガルは2020年に沖縄県うるま市で開校しました。小・中学生向けに少人数制集団授業を行い、定期テスト対策の勉強会に力を入れています。また、今年4月から卒業生を対象に高校部の試行版として数学の指導をスタートしました。

児玉 宮崎県宮崎市の個別指導学習塾シヨウライツクールです。対象学年は小・中・高校生、さらに卒業生のための予備校も運営しています。小・中・高一貫教育によって大学受験を見据えた指導を行っています。

矢葺 愛媛県西条市と新居浜市に2校を構えるやぶき塾です。松山市まで車で1時間ほど、いわば「少子化の極み」のようなエリアです。習熟度別クラスのライブ授業と映像授業による中・高校生の指導がメインで、小学生コースの通塾生もわずかに抱えています。

岩崎 京都府宇治市で京大教育研究会を運営しています。現在は小・中・高一貫指導体制で、小学生は自立学習と少人数集団指導、中・高校生は個別指導と少人数集団指導です。来年度以降は、中学2年生以上を対象に難関大学受験に特化していきたいと考えています。

菅原 中学受験・高校受験を対象とする、

ルです。小学4年生から高校3年生を対象にしています。基本的には大学受験が主軸で、現在は中学生が約3割、高校生が7割を占め、小学生は2名ほどです。

全国的に夏期講習の集客活動は鈍化
大きな山にならないことは想定済み

地域の個人塾の件数が
約1/3減少している現状

西園寺 まずは各塾の現状と課題、そして他塾も含めた夏期講習の集客状況をおたずねします。

安東 沖縄は全国的に見ても、少子化のスピードがまださほど逼迫していないため、夏期講習の集客に関しては例年並みです。ただし、夏期講習で一気に集客の大きな波が来ることを期待できるわけではありません。他塾の方々と情報共有したところ、以前と比べて全体的に山が下がって通年で平らな状態で、4月から6月までの間で入塾の問い合わせが分散傾向にあるようです。

児玉 宮崎では定期試験を6月末に終えて、保護者もようやく本格的に夏期講習をどここの学習塾で受けさせようかと、探

東京都江戸川区の菅原進学教室です。小学部は私立中堅校から上位校受験を目指し、中学部は都立進学校をはじめとして難関私立高校や大学附属系高校を受験する生徒が中心です。

榎本 家庭教師のアクセスは、首都圏における家庭教師ならびに中学受験・私立中・高一貫校専門個別指導塾です。中学受験をメインに据えて、高校入学後の指導にも注力しています。下は小学3年生から上は高校生まで指導しています。

太田 新潟県燕市と三条市で3教室を展開する、自立型個別指導の立心ゼミナール

参加者

沖縄県	安東 僚大郎 氏	(学習塾ベンガル)
宮崎県	児玉 秀和 氏	(シヨウライツクール)
愛媛県	矢葺 亘 氏	(やぶき塾)
兵庫県	戸井 康和 氏	(総合進学塾スクラム)
京都府	岩崎 功志 氏	(京大教育研究会)
東京都	榎本 勝仁 氏	(家庭教師のアクセス)
東京都	菅原 明之 氏	(菅原進学教室)
新潟県	太田 義人 氏	(立心ゼミナール)
進行	西園寺 弘 氏	

戸井 兵庫県内陸部の小野市に教室を構える、総合進学塾スクラムです。自立型および個別指導の形態で小学生から高校生までを指導しています。

し始める時期だと思っています。

岩崎 京都でも6月末に前期の期末試験が終わり、その結果を見て成績下位層を中心に7月初旬には集客の第一波があると予想されていました。実際、中学3年生に関しては現状維持の塾が多いようですが、中学1・2年生の集客はほとんど動いておらず、また小学生の集客状況も低調です。

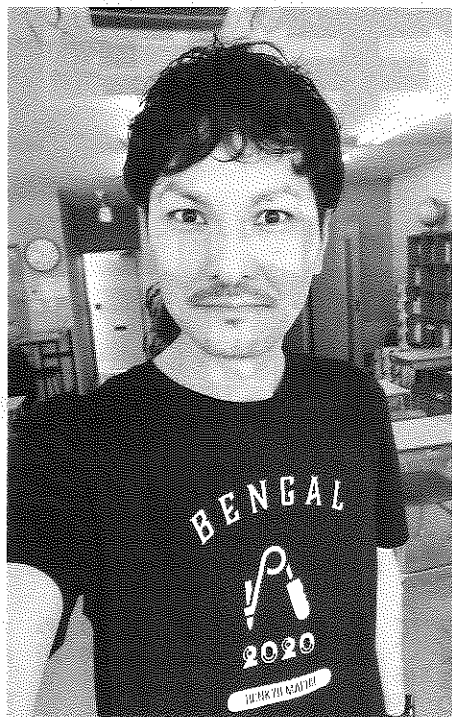
夏期講習の募集広告は大手塾のものしか見当たらず、中・小規模の学習塾の発信は一切ありません。

矢葺 率直に申し上げて、愛媛県新居浜市・西条市では集客活動に関してほぼ動きがないのが現状です。そもそも個人塾や中・小規模の塾を含めて、地域の中で学習塾の件数が1/3ほど減少している

進行
西園寺 弘

教育評論家。1955年生まれ。月刊誌記者のアルバイトをしながら東京都内の大学・大学院に通う。卒業と同時に1年間の海外遊学。帰国後、私立高校社会科講師、専門学校英語講師を経て大手塾に5年間勤務。退社して以後は教育関連、特に学習塾や英会話教室関連の執筆活動に専念している。民間教育の現場に詳しい。





(沖縄県) 学習塾ベンガル代表 安東 徹太郎 氏

印象です。夏期講習で集客が期待できないことはやはり想定済みで、それ以前に経営課題をいかに克服するかがまさに正念場だと言えます。周辺の学習塾も同様の感覚を抱いている可能性が高いと思います。

菅原 自塾では春の集客が難航したその2か月後、追い打ちをかけるように安価な授業料や個別指導へと流れて生徒が辞めてしまう事態が発生しました。中学3年生が半分くらい辞めてしまったことが最大の痛手です。矢野さんがおっしゃる通りに、中小零細規模の学習塾が消滅してしまつという話にまさにリンクする状況に陥っています。

チラシ出稿は全般的に減少 9月以降の入塾に期待も

戸井 皆さんがおっしゃる通り、夏期講習に向けた集客活動は鈍っています。兵庫県の内陸部における夏期講習の募集状況は、一斉指導の大手塾が新聞折り込みチラシを1回、個別指導塾が1回出しただけです。

チラシの内容も夏期講習を一大イベント的に盛り上げるといふよりも、淡々と授業料と指導内容を明記しているだけの印象でした。例年はさまざまな要素を盛り込みながら、やや煽るような内容も見られました。

が、今年はそれがまったくありません。チラシの効果に対する期待が薄まっております。今後他塾が夏期講習の募集チラシを出すことはないのではないかと予想しています。

太田 先週の日曜に夏期講習の募集チラシを出したところ、現状、まったく動きがありません。新潟県内では、最も早いタイミングで他塾が6月8日にチラシを出していました。が、他にはほとんど見られません。やはり4月・5月の方が入塾の勢いは盛んで、夏期講習の集客は以前と比べて失速しています。

榎本 首都圏では大手塾が6月初旬には既存の生徒を夏期講習に囲い込んでいます。早ければゴールデンウィークには保護者宛てに夏期講習の募集案内を出しているようです。

矢野 愛媛でも10年前にはゴールデンウィーク明け頃から夏期講習のチラシが数枚ずつポストに入っていました。が、今年はこれまで大手塾が1件、個別指導塾の定期的なチラシが1件程度です。自塾ではフリーペーパーに広告を掲載し、他塾も1件だけ出稿していました。

太田 フリーペーパーの折り込みチラシは、1枚約7円と非常に高額です。新聞折込チラシは45円程度です。

戸井さんのおっしゃっていたように、一般的に他塾は8月に入ると夏期講習のチラシは入れませんが、私は逆を狙ってチラシを出し続ける戦略をとっています。保護者が忙しくて夏期講習の申し込みのタイミングを失ってしまった、あるいは高額な夏期講習は避けて夏休み明けの9月から入塾を希望するケースもあるためです。昨今は夏休み前に入塾する件数よりも、9月以降の申し込みの方が多い印象です。

矢野 高校生の映像授業を実施している予備校も多数ありますが、夏期講習が10万円・20万円と高単価のイメージが強いので避けられてしまう可能性があると思っています。昨今は9月から入塾するケースも数多いため、太田さんと同じくそこを狙っていきたいと考えています。

岩崎 夏期講習の集客対策としては、思考力を養成する講座などを設定して、他塾との差別化を図ることが有効だと考えています。京都でも、小学校高学年や中学3年生を対象に特色のある講座を設けて夏期講習への集客を促す動きが見られます。

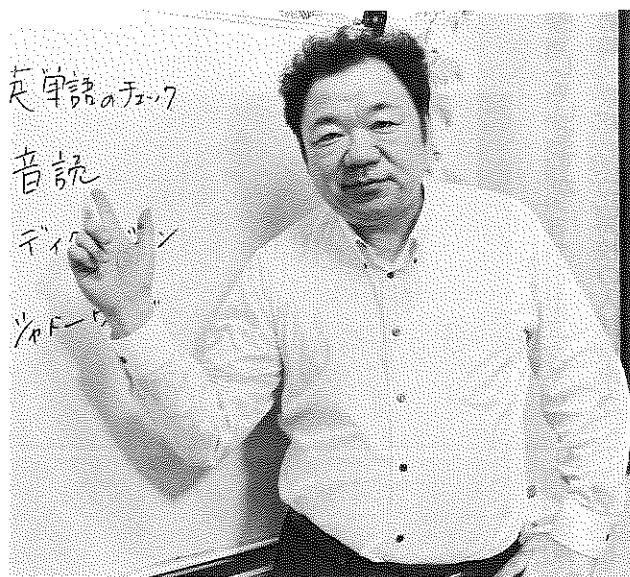
2学期制の導入や地域間格差、 学区再編など外的要因を探る

定期試験の回数が減少した 影響は今後も注視が必要

西園寺 現時点で全般的に夏期講習の集客活動が盛り上がりつつない状況ですが、その要因をどのように分析されますか。

戸井 以前は学校で夏休み前に保護者懇談会が行われ、先生たちが受験生を中心に「夏休みはしっかりと勉強するように」と生徒たちを鼓舞していました。昨今は、夏休みに入ってから三者面談などを始めるスケジュール感です。全国的に同じ現象が起きているように見受けられます。

児玉 宮崎市内の公立小・中学校は2学期制を採用しています。中学校で中間・期末という名称の定期テストは実施されていません。その代わり、前期と後期に各1回ずつ、計2回の定期テストが行われます。定期テストの回数が減ったことにより、夏期講習の集客の波が遅れていると嘆いていら



(宮崎県) ショウライツクール 代表 児玉 秀和 氏

いると嘆いていら

しやる学習塾の先生方が多いと感じます。

岩崎 京都でも1学期の中間テストがほぼ廃止された影響で、入塾時期自体が後ろ倒しになっている印象です。また、2025年度から中学校の教科書が改訂され、小学校で前年度に導入された新しい学びを引き継いで、中学生が主体的に学べる内容が強化されました。教材会社数社によると、1学期における学力テストの導入数は、資金力や知名度の差が影響して大手塾が昨年対比で数%増え、個人塾は数%減っているのとことです。

菅原 東京は6月中旬に試験があり、基本的に9月に試験がある学校とない学校に分かれます。中学3年生は11月の試験が最終となります。実際、定期試験の回数自体が減っているのは事実です。以前は9月に試験がありました。が、夏休みを挟んで試験範囲が少なくなったために行わない学校が増えたようです。

西園寺 各都道府県における地域間

西園寺 集客の鈍化は言わずもがな少子化が最大の要因ですが、2学期制による影響は今後も注視していくべきだと思います。

菅原 東京都内は特に高校入試について、連日、安売り合戦が繰り広げられています。ネット検索すると、安価な料金設定の個別指導塾の情報が散見されます。自塾でも4000円台を打ち出してみましたが、もはや一斉授業を継続するのが難しいというのが正直なところです。

安価な個別指導塾が台頭したことによって、こちらへ流れてしまう傾向にあり、非常に厳しい状況に追い込まれています。

榎本 関西エリアの私立高校の授業料無償化についても、特に大阪は少なからず影響が及んだと聞いています。関西でも私立中学受験が増えている中で、都内と同様に最上位は基本的に授業料無償化の影響は少なく、その下のレベルが景気に左右される面が大きいのは間違いありません。

公立高校入試の定員割れで 地域間格差がより顕著に

格差について、どのように捉えている



(愛媛県) やぶき 肇 代表 矢葺 亘 氏

らっしゃいますか。

岩崎 京都も公立高校の入試倍率が平均1倍を切っていますが、何よりも地域間格差が顕著です。学習塾の集客状況は全般的に北部が不調で、舞鶴市では定期テストを完全に廃止したことがその一因だと考えられます。一方、京都市内は比較的状況を呈しています。入塾にあたって相当検討を重ねる傾向があり、問い合わせ件数が増え、入塾のハードルは上がっているように感じられます。

矢葺 愛媛でも公立高校の定員割れが深刻です。近隣のA高校では、今春30名弱の定員割れが起き、再来年度は1クラス減る予定です。また、B高校もここ数年定員割れの状況が続き、定員数を減らしたにもかかわらず、

ず、定員に達しない年もありました。

ただし、松山市内だけは別格です。360人の定員に対して100人超えとなる年もあるなど、集中化が生じ、他地域とはまったく違う状況です。

戸井 兵庫県内陸部の公立高校でも定員割れが起きており、特に昨年度は三木市で3つの公立高校が1つに合併される状況で、公立高校受験の厳しさは薄れる一方です。

さらに拍車をかけたのが、学区の再編です。神戸、明石、加古川、姫路といったJR山陽本線沿線の都市部の公立高校が地域1番手校を担うようになり、内陸部は2番手、3番手です。

再編直後は内陸部でも「元・1番手校」を目指す風潮がありました。が、

学区再編が実施されて5・6年が経ち、1番手校、2番手校の順位が定着しつつあります。年を経るごとに1番手校と2番手校の差は如実化しています。

西園寺 沖縄は県立中・高一貫校が増加していますが、その影響はいかがですか。

安東 近隣の県立中・高一貫の進学校である球陽中学校が人気で、そこを目指して中学受験を決定する小学生の入塾が増えています。球陽高校は県内の2番手で、1番手は開邦高校です。この2校が中・高一貫となり、県外の国公立大学をはじめとして旧帝大に合格する公立高校の生徒も出てきています。

ただ、地元の保護者の認識はまだまだに「元・1番手校」という印象が拭いきれていません。つまり、それほど努力しなくても「元・1番手校」には合格できると確信し、合格後も保護者や子どもたちは安心していますが、実際には大学進学実績が相当落ち込んでいます。

菅原 都内では高校受験の単願で3000人が私立に流れました。つまり、公立高校の進学者数が3000人減ったのが東京の実態です。都立高校は1000人に対しておよそ80人に定員割れが起きています。

中受・高受・大受の各傾向を分析 大学進学を見据えた継続指導を

首都圏の私立中学受験は 地域によって半数を超える

西園寺 都内の中学受験の状況はい

かがでしょうか。

榎本 首都圏模試センターの中学入試基礎データによると、学年・都県別児童数は、東京で現5年生と現4年生が10万5000人を超えています。現3年生から徐々に減り始めています。埼玉県や千葉県はその減り方が顕著です。

また、東京・神奈川・千葉・埼玉の1都3県の合計で、2025年中学入試受験者は5万2300人、入試受験率は18・1%で、およそ6人に1人が中学受験を経験します。地域によつては半数が中学受験をするなど、地域間格差が目立ちます。また、全国的に中学受験はしばらく好調が続いてきましたが、実際は頭打ちになっているのが現状です。

の倍率は横ばいだと認識しています。が、実際はいかがでしょうか。

榎本 学校にもよりますが、倍率は平均して2・5〜3倍ぐらいです。女子は比較的共学志向があつて共学の倍率が高いのですが、偏差値下位の女子校は横ばいもしくは「ウェルカム」な状況です。

の先の対策を備えておかなければなりません。そこで、低学年指導でノウハウを積み、それを徐々に下ろしていく流れを構築したいと考えています。

中学受験が終わつても勉強は終わりではありません。特に、中学受験を検討しているご家庭は間違いなく大学進学を視野に入れているため、いかに継続提案をしていくかが課題です。

校入試に向けた模試のフォローなどは当然のことですが、それを謳い文句にするだけで差別化が図れるような状況です。中学で入塾して高校への継続を提案できる塾は、まだまだ頑張れると思います。

岩崎 宇治市の公立高校がほぼ毎年定員割れしているため、中間層は成績3以上を取つていれば高校に進学できると考えられており、入試に備えて塾に通わないまま高校に進学します。そのため、通塾層が完全に2極化しています。1つは成績1や2の生徒が駆け込みで入塾するケースです。自塾は成績下位層を対象にしないため、まずメリットがありません。

中学から高校へ継続提案が できるかが明暗を分ける

菅原 中学受験における私立女子校

児玉 私立中・高一貫校はある程度意識の高い保護者層に選ばれます。保護者は私立中学に合格さえすれば

高校入試がない分、子どもの負担も少なく、塾に通わずとも私立なら学習面をしっかりと担ってくれるから一石二鳥だと考える傾向にあります。自動的に高校受験の需要が少なくなり、高校入試をメインターゲットにしている学習塾が苦戦を強いられるという構図が生まれているように思えてなりません。

矢葺 愛媛県内の学習塾は中学1・2年生の集客が壊滅的です。しかし、そんな中でも元気な塾が取り組んでいるのは、中・高一貫指導です。中学生の一斉授業が成立しにくい塾が多い一方で、「全科目指導」や、高



(兵庫県) 総合進学塾スクラム 代表 戸井 康和 氏

一方、成績上位層は大手の無料講習会から通塾を継続するケースが多いようです。極端に言えば、高校受験のみの中小規模塾は、潰れるのを待つしかない。危機的な状況です。中・高一貫指導で高学歴を目指す形にしていかなければ、高校受験専門塾だけではやっていけないのです。冒頭にも申し上げました通り、自塾では中学2年生からの中・高一貫指導に切り替える決断をしました。

中学3年生の通塾率は
大学進学率とほぼイコール

西園寺 高校部の状況についてお聞かせください。

岩崎 京都では、公立高校受験が成立しないに等しいため中学時代は塾に通いませんが、高校生になったら塾に通いたいという需要が一定数あり、2割ほどにのぼります。

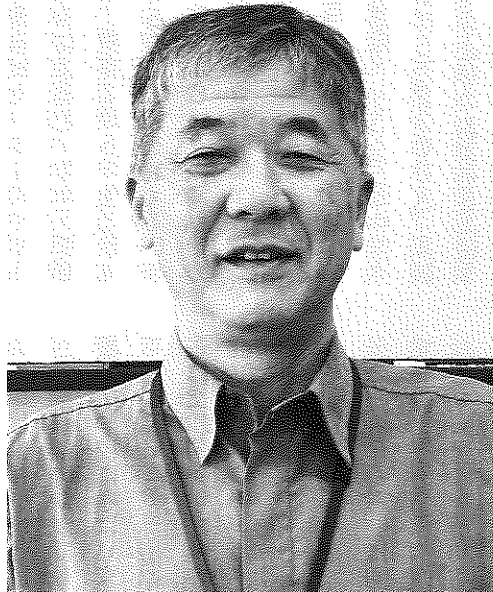
実際に高校2年生の終わりに通塾を始めて、偏差値を10以上引き上げなければ志望大学合格の見込みがない生徒しか集まらない状況が続いており、入塾させるかどうか非常に悩ましいところです。

戸井 繰り返しになりますが、兵庫

県内陸部では、現状と保護者の意識のギャップがあることが否めません。地元の高校は優秀だという錯覚を持つままですが、実のところ大学進学実績は非常に危機的な状況です。その事実が地元にもう少し浸透すれば流れが変わっていく気がします。

西園寺 保護者の意識が現実と乖離しているならば、2名でも3名でも集めて現状を説明することをお勧めします。保護者は30年前の感覚を引きずっているため、誤解を解く地道な啓蒙活動が必須だと思います。

榎本 今後は、特に高校2年生の指



(京都府) 京大教育研究会 代表 岩崎 功志 氏

の入塾を11月ぐらいまで延期したところ、問い合わせが続いている状況です。

私の肌感覚ではありますが、定期テストの前後など一般的に集客が盛り上がると言われるタイミングではなく、各家庭で気づいたタイミングを重視するケースが以前より多くなっている印象です。その分、入塾のタイミングが分散していると思います。

児玉 安東さんがおっしゃるように、入塾のタイミングが多様化していると感じます。以前は、1学期の定期試験の結果が悪かったことを受けて入塾に踏み切る流れが通常でしたが、先ほどのお話にもあったように、定期試験の回数が減っている影響が大

きいと思います。

戸井 夏以降もあまりいい状況は望めません。昔のように、夏期講習や冬期講習、受験直前対策講座、新年度などのイベントに対する保護者の反応が完全に崩れてしまっているような気がします。入塾のタイミングは「夏休みだから」ではなく、本人の意思、もしくは「保護者がしびれを切らせて」など個別化・多様化しています。学習塾が今まで持っていた集客のタッチポイントは、今後ますます期待が持てなくなると思います。

太田 高等部を構えているため、中学生の入塾時期の制限は設けていません。冬から入塾する生徒もいて、高校受験が終わって卒業せずにそのまま高校部へと継続してくれま

導に力を注ぎ、3年生の先取り学習をすることによって、ある程度の大学進学実績を見込んでいます。

西園寺 2年ほど前、東京都の通塾率が70%前後で、昨年の大学の現役進学率は72%でした。つまり、中学3年生の通塾率は大学進学率とほぼイコールです。大学進学に限らず専門学校まで含めると、高校卒業後80%が進学します。中学3年時点で通塾をさせる保護者は「子どもは大学に当然行くもの」と考えていま

す。しかし、そうではない家庭とまさに2極化が進んでいます。またかつては、集団指導の集客時期は中学受験なら2月、高校受験なら3月・4月に集中しており、個別指導はやや分散傾向にありました。しかしながら、大学受験はその流れが少し早まっているのかもしれない。感覚的には、成績上位層の入塾時期が早まっている印象です。3か月ほど前倒しがスタンダードになっ

ていく可能性があると思います。

定期試験、夏・冬期講習、新年度など
保護者のイベント感覚の薄れを指摘

入塾のタイミングが分散
各家庭の判断で多様化

西園寺 今秋から来春にかけて、地元における学習塾の景況はどうなっているかと予想していますか。

安東 夏期講習の募集はすでに締め切りましたが、9月以降も沖縄では入塾の問い合わせが絶えないと予想しています。実際には、入塾時期が遅れているために通年でコンスタン

トになっている面もありますが、大きな山ではなくとも途切れることなく入塾のタイミングがあるのを期待しています。

全国的な入塾時期の遅れや保護者がシビアに入塾を検討する傾向は、沖縄でも起こることが想定されます。そこで、対策の一手として中学3年生

ただ実際に、中学1年生から高校3年生まで6年間にわたる生徒は10%にも満たない状況です。高校生になっ

たら塾に通わせるから、中学部は控えようと保護者は考える傾向もあると思います。

高校部を新設する際には
大学受験専門塾として特色を極める

大学受験を見据えた指導
対象学年の移行に試行錯誤

西園寺 今後、自塾の生き残りをかけてどのような方策をお考えでしょうか。

児玉 中学3年生の集客が好調なため、高校部への接続を強化していきたいと思っています。

安東 高校受験にターゲットを絞った今のやり方だけでは、将来的に厳しくなっていくと予測しています。個人塾は小・中・高一貫指導体制が目指すべき理想形だと考えています。

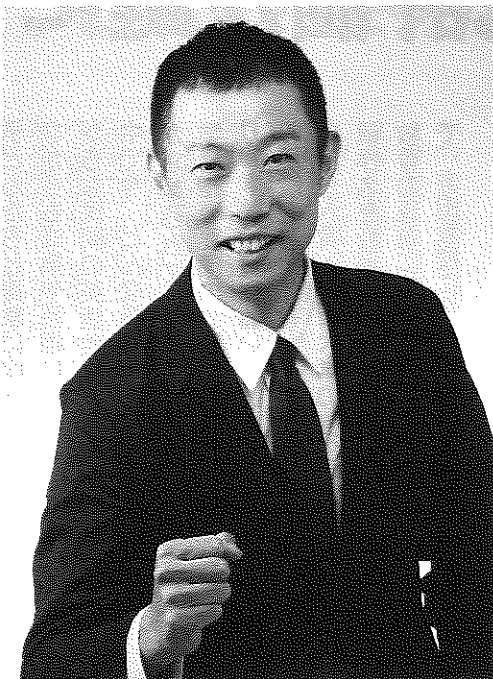
矢晝 本来は「ドル箱」であったはずの夏期講習の集客が見込めず、さらに9月以降も入塾を受け付けた場合、入試に向けた受験期直前の特別講習が成立しなくなってしまう恐れ

もあります。公立高校の定員割れにより、子どもたちの学力面や大学受験対策を考慮すると、あまりにもデメリットが多すぎると考えて中・高一貫指導を始め、試行錯誤を繰り返しています。

早々と中学3年生から高校の指導内容を加え始めたところですが、中学生の学習に高校の指導内容を加えていくことが非常に難しいのが現状です。今年成功した生徒は、5%、10%いるかどうかです。

マンパワー的に高校部の先生が中学部を担当したり、中学部の先生が高校部を持ち回りにしながら、塾内でのバランス調整を行っています。少ないマンパワーで中学部と高校部の

(東京都) 家庭教師のアクセス 代表 榎本 勝仁 氏



(新潟県) 立心ゼミナール 代表 太田 義人氏

されることに慣れていないため、子どもたちの価値基準はすべて自分の中にあるものだけです。「いつまでにこれを達成しなければ受験に間に合わない」という時間軸が子どもたちの中にはなく、また結果を性急に求めると長期間在籍してもらうことが難しい状況です。

セミナーや電話面談の回数を増やして保護者に働きかけ、小さなニーズを吸い上げる活動を積み重ねながら、在籍期間を伸ばす努力が不可欠です。

例えば「英検や数学の成績を上げてほしい」という個別具体的なニーズに対して、しっかりと結果を残そうとすれば、子どもたちにある程度の負担をかけなければ成功しませ

戸井 保護者の方々から時間の猶予が与えられないのが現実です。現場レベルで油断して少し時間をあけてしまうと、すぐさま保護者の方々のニーズが変わってしまうことを痛感しています。保護者のニーズが利他的といえますか、この瞬間はこれ

自塾のブランディングと保護者との接点の増強

ん。結局のところ、その両輪で走っていかなければならないと考えています。

岩崎 今の子どもたちは、負担をかけられることに慣れていないため、楽しく通塾、する中でモチベーションを上げていくことが必要です。

を望んでいても、1か月後にはまた別の何かを望むような傾向があります。そうしたニーズをどのようにキャッチしていくべきかに頭を悩ませています。小さなニーズを拾いながらその結果を返していく形に変えていかなければなりません。

例えば毎月保護者懇談を組むとか、少なくとも電話でやりとりの中で今月の目標をこまめに共有していくことが求められていると思います。

榎本 自塾では東京都内と神奈川県をメインに据え、これまでは小学3年生は対象学年にしてきませんでした。今年、今年は試験的に自らも男女1名ずつ入塾を受け入れています。とにかく、契約者は生徒ではなく保護者です。保護者との接点をいかに増

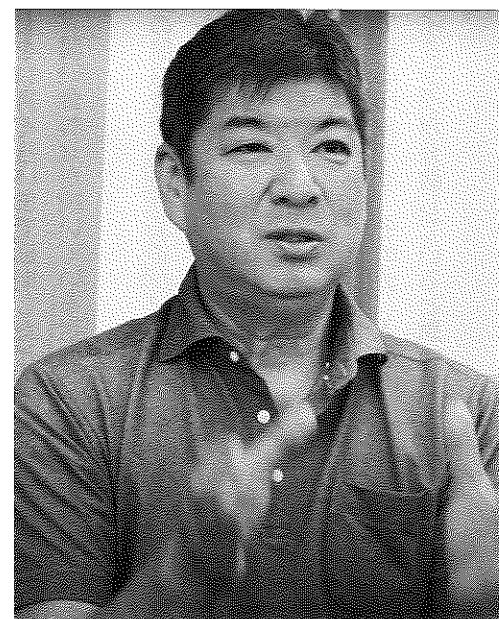
やすかが肝要だと考えています。

菅原 価格設定も熟考していかねばならないポイントです。低所得層が多いエリアでは、1教科1コマ5000円は家計に大きく響いてしまったため、塾選びの対象外となってしまうと思います。価格を単科設定にするなど、方策を慎重に考えていきたいと思っています。

岩崎 今後の生き残り策をひとつで言えば、動き続けること、です。たとえ大手塾が攻勢をかけてきても教室長次第で集客力は変わるものです。悲観するばかりではなく、地域のニーズに応えるサービスを真摯に提供し続けていく必要があります。

具体的には入塾テストを実施してブランディング化し、成績下位層にまでターゲットを広げることなく上位層に特化する方針です。また、京都府の公立高校では来年度から入試改革が行われます。学習塾にとってどのようにプラスに働くかを注視していかなければならないと思っています。

西園寺 多岐にわたってさまざまな角度から、学習塾が抱える課題と今後に向けたヒントが浮き彫りになったと思います。本日は貴重なご意見をありがとうございました。



(東京都) 菅原進学教室 代表 菅原 明之氏

バランス配分を考えていく必要があります。

西園寺 単に「高校部を新設しました」というレベルではなく、大学受験専門塾としての特色を極めていかなければならないと思います。

矢野 おっしゃる通りです。もともと大学受験専門塾としてスタートしましたが、ここ数年は「高校生の指導ができます」ではなく、「大学受験指導ができます」と明確に示すことによって、希望を持って入塾されるケースが比較的多いと感じています。

中学生の集客が難しいという理由だけで高校部まで拡大しても、高校2年生になったら辞めてしまつとか、悪評を招きかねません。生き残っていくためには、その点に留意していか

なければならぬと考えています。

太田 私も矢野さんと同じ方針です。基本的に大学受験ありきの塾にしていくべきだと思います。いままでのように小・中学生対象から、中・高校生対象にシフトするような感覚で大学受験を極めていく姿勢が求められています。

ただし、高校生の人数が少なくなつて、新潟では3年以内に高校が合併する話も進行しています。10年以内に塾を閉じるのであれば今のまま何とか食いつないでいけるかもしれませんが、でも、10年以上塾経営を続けていくのであれば、新潟県でいえば中心部の新潟市に進出する覚悟を持たなければ今後は持ち堪えられないと危惧しています。

子どもを認める指導と結果を出す指導の両輪が不可欠

保護者のニーズを満たして楽しく通塾がキーワード

菅原 東京都の公立中学校では、「授業中に居眠りをする生徒を若い先生が注意することができない。子どもたちもそれをまったく聞き入れない」とベテランの先生が嘆いていました。実際、学習指導要領も「指導」から「支援」に切り替わっています。表向きはあくまでも「指導」ですが、現場の通達レベルでは「支援」と表記されています。

自塾で生徒数が減少してしまつた要因の1つは、私自身が授業中に寝ている生徒ややる気のない生徒を注意していたことにあると推測しています。彼らはまるつきり聞き入れず、むしろ反発を感じ、それが連鎖して退塾してしまつたのだと思います。

学校の先生方も前向きに取り組もうとしている中で、学習塾のあり方そのものが問われています。塾とし

てやるべきことをやる、まずいものはまずいと発信し、何らかの形で自塾の姿勢を貫いて乗り切っていきたいというのが切なる思いです。

児玉 菅原さんがおっしゃるように、学校の指導方法が変容している中で、私自身も指導スタイルを変えなければならぬのではないかと考えています。今まではどちらかというと厳しめに強制力を持って、生徒の苦手分野を何とか克服しようと邁進してきました。しかし、これからの学習塾の指導は1人ひとりの「できたこと」を承認し、長所を伸ばしていくスタイルに変えた方がいいのではないかと思索しています。

戸井 子どもたちを認める指導スタイルに期待を抱く一方で、従来以上に時間がかかってしまつという問題に直面します。怒られることや指導